

学ぶ権利を奪う高校つぶしは撤回せよ  
—府教委「実施対象校及び再編整備の手法の案」に対する見解

府教委は9月5日、教育委員会会議を開催し、府立学校条例・再編整備計画に基づく2016年度の「実施対象校及び再編整備の手法の案」を示しました。今後、「様々な意見を踏まえ、11月の教育委員会会議で最終決定する」としています。

その内容は、「定員割れ」を理由に大正高校を泉尾高校と統廃合し、泉尾高校の校地で総合学科高校とする、来年度からの募集停止が決定されている西淀川高校を北淀高校と統廃合し、北淀高校の校地でエンパワメントスクールとする、再編整備の手法が検討されていた能勢高校を豊中高校の分校とする、和泉総合高校をエンパワメントスクールに改編するなどとなっています。

「案」は、維新の会主導で作られた「3年連続定員に満たない高校でその後も改善の見込みがないと認められるものは再編整備の対象」との条例、「2018年度までに府立高校、大阪市立高校あわせて7校程度を募集停止」との府教委の再編整備計画に沿って、子どもたちの「学ぶ権利」を奪う高校つぶしをすすめるものであり、断じて許せません。

そもそも「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校に「定員割れ」があるのは当たり前です。それを理由に学校をつぶすなどの異常な対応は他府県には見られません。しかも、大阪の府立高校は全国から突出して大規模となっており、学級定員も40人に据え置かれたままです。「少子化・生徒数減少」でゆとりができるのであれば、学校規模の縮小、少人数学級実施など、教育条件の整備こそおこなうべきです。それに逆行し、子どもたちを過酷な受験競争に追い込み、競争の下位に置かれた子どもたちを切り捨てるやり方は、公教育の役割を投げ捨てるものであり、きわめて不当です。

エンパワメントスクールについて再編整備計画は、「2018年度までに10校程度を設置する」としていますが、この間改編が行われた長吉、西成、箕面東、成城、岬、布施北に加えて今回の2校で8校が設置されることとなります。設置にあたっては、当該校の教職員が最善と考える教育課程の保障が強く求められます。

また、能勢高校の分校化に関わって、教職員定数をはじめ、教育条件の低下があってはならないのは当然です。

府高教は、大阪の高校を守る会など、父母・府民との共同をさらに発展させ、道理のない高校つぶし撤回のたたかいに全力をあげます。

2016年9月5日  
大阪府立高等学校教職員組合  
執行委員長 志摩 毅